

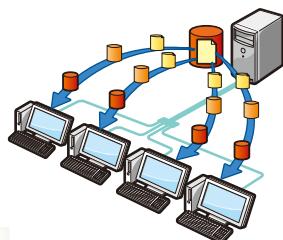
CASE STUDY

wasay

導入事例

ネットワークブート方式シンクライアントシステム

ファンタジー
PHANTOSYS



IT管理担当
山本英次郎さん

学校法人西野学園
札幌リハビリテーション専門学校
〒060-0004
札幌市中央区北4条西19丁目1-3
TEL 011-616-2221
ホームページ
<http://www.nishino-g.ac.jp/reha/>

医療教育のパイオニアとしてIT活用に新たな可能性を開く

最先端のIT環境を目指す

学校法人西野学園は、医療・福祉職に関わる人材育成を行っています。そのための専門学校として札幌に3校、函館に1校を持ち、その中で理学療法や作業療法に携わる人材育成を担当するのが札幌リハビリテーション専門学校です。

「わかる授業」「できる授業」を目指す西野学園は、教育システムおよび教育カリキュラムの充実については学園のポリシーとして重点的に取り組んでおり、そのインフラとなるITの導入についても積極的に進めています。昭和43年に学校法人としてのスタートを切った西野学園が札幌リハビリテーション専門学校を設立したのは平成13年のことですが、当時からITについては最先端の実現を目指し、これが同校の特色の一つにもなっていました。PC実習室では当初から最新PCによる一人1台環境の下に充実した教育カリキュラムを実施、これが医療の現場で活躍する卒業生の高い評価にもつながっています。



同校でPC実習室のPCが2013年春に入替期を迎えるのに合わせて、PC実習室の全端末をシンクライアント化しようという計画が持ち上がったのは2011年春のことです。「情報セキュリティの向上、IT運用の効率向上、今後のシステム成長に向けた柔軟性の確保などさまざまなメリットを考えると、数多くのクライアントPCを稼働する組織にとってシンクライアントが最適」(西野学園・IT管理担当・山本英次郎氏)であるとの判断です。

同校のPC実習室における教育の内容は、医療に限らずあらゆるビジネス現場で必須となるIT活用に向けてその基本知識と操作を習得する情報処理教育と、理学療法や作業療法をはじめとするリハビリテーション技術を学ぶためのツールとしてITを活用した教育の2種類に大別されます。「そのいずれにおいても、その時々の必要に応じて環境を更新するためにはすべてのクライアントに対する設定作業が必要で、バージョンアップの際などそのための時間と手間が大変です。しかしシンクライアントであれば、すべてをサーバー側で一括管理できますので、各クライアントの設定変更はもちろん、何か問題が生じた際の環境復元なども迅速かつ安全・確実に行えます」というのがその理由です。

学校法人西野学園 札幌リハビリテーション専門学校

リハビリテーションに関わる医療教育のパイオニアとして人材を輩出してきた札幌リハビリテーション専門学校は、2013年春にPC実習室のシンクライアント化を実現し、教育へのIT活用に新たな可能性を開きました。このシンクライアントを実現する上で大きな役割を果たしているのが、ネットワークブート型シンクライアント「Phantosys」です。



■ デモを見て使えると直感

さてシンクライアントへの方向性は定まったものの、では具体的にどのシンクライアント製品を導入するかについては全く白紙の状況が続きます。同校におけるIT導入の責任者である山本氏は、シンクライアントについても従来から大きな関心を寄せており、インターネットを中心にさまざまなシンクライアント情報を収集してきました。そしてこれらの情報をつぶさに検討した結果「各シンクライアント製品にはどのような違いがあり、どのような業務にはどの製品が適合するかなど、各プロダクトを比較検討するために必要な情報が殆どない」ことに気付きました。

そこで山本氏は、実際にシンクライアントを活用しているユーザーに出向いて忌憚のない声を聞くなど、自分の足と目でシンクライアントの現状調査を開始します。そして1年後、「Phantosys」というシンクライアントの存在を知ることになります。そのきっかけは地元の販売店（大丸藤井株式会社）との会話です。「販売店の担当者から Phantosys というシンクライアントが急成長していることを聞きましたが、担当者もまだ取り扱ったことはないとのことです。そこでさまざまなルートを通じて情報を収集したところ、Phantosys への関心はさらに強くなりました」。そこで実際に製品のデモを見たところ、「機能的にも操作的にもそれまでに見たシンクライアントとの違いを感じました。これまでさまざまなシンクライアント情報を収集しました実際にユーザー事例を見てきた経験から、これは使えると直感したのを覚えています」。

そこで「Phantosys」を含む3社の商品を候補として最終検討に入りました。シンクライアントの方式については、一般的PCをクライアント端末として利用でき、大容量のアプリケーション活用についても問題なく、運用の面でも効率が高いことから、ネットワークブート方式を選択することにしました。そしてネットワークブート方式の中でも、管理機能と操作性の両面で優れた「Phantosys」の導入が決定しました。

販売店から話を聞くまで山本氏は、「Phantosys」についてもそのベンダーであるワッセイ・ソフトウェア・テクノロジーという企業についても全く知らなかったということです。まだ一般的には知られていないメーカーのプロダクトを導入するという決断についてはそれなりの覚悟が必要です。しかしこの点について山本氏は「リスクを感じたことはありません。なぜなら、シンクライアントに限らず最先端のテクノロジーは往々にして無名の企業によって開発され、これがITの飛躍的な進化を支えてきました。ITの世界では今をときめく企業も、その殆どがごく小規模なベンチャー企業としてのスタートです。ITの世界では技術力とブランド力は一致しないことが多いのです。既存のブランドに頼るだけでは、他社に先駆けて最先端テクノロジーを導入してその成果を得ることなど不可能です」と述べています。

■ クライアントOSにはWindows8を採用

今回の「Phantosys」の導入に関して見逃せないのが Windows8 の登場です。同校では2012年末に入替予定のPC実習室のクライアントPCについて、当初はWindows7を採用する予定で進んでいました。しかし2012年秋にWindows8が発売されたことで、Windows7かWindows8のいずれを採用するかという新たな問題が生じました。

「これまでの稼働実績を見るまでもなく、安全性を考えるなら Windows7 の採用が常識です。しかし新製品は積極的にこれを採用していくという西野学園の導入ポリシーに則って、シンクライアントでまだ導入事例のなかった Windows8 をあえて導入することになりました。Phantosys は Windows8 にも対応済であることを表明しており、クライアントOSの自由度が高いことも大きなメリットと感じています」

発売されたばかりの Windows8 を教育用シンクライアントPC端末として同校が採用したのは、PCの今後の方向性を見据えた決断によるものです。「スマートフォンやタブレットPCが急速な普及を見せる中、教育用PCも当然のことながら変化します。教育用ではデスクトップPCやノートPCがまだ一般的ですが、より携行性の高い機種への流れは当然で、これらがPCの範疇を超えていく可能性も強いのです。このような流れの中で、デスクトップのシンクライアントユースにおいても従来OSにこだわる理由はありません。特定OSに限定されない Phantosys は、私達が目指す方向性に合致しているということで、これも Phantosys 選択の要因の一つです」と述べています。

同校が実際にシンクライアントの運用を開始したのは、学期の変り目を考慮した2013年の3月のことです。実際に Phantosys の運用を開始しての感想は「サーバー側で全クライアントPCがいつでも自由に管理できることの便利さは予想をはるかに上回ります。全クライアントの環境を一齊に変更することも個別に変更することも自在で、操作性についても言葉はありません。稼働してまだ数ヶ月でまだ慣れないところもありますが、メーカーの対応には満足しています」ということです。

「探求、創造、貢献」が西野学園の教育理念です。「医療とはあくまで人と人との関わりの中で為されるもので、人を理解して関わりを深めるには創意工夫が必要です。この創意工夫する力を高めるために、ITはとても有効なツールです。最先端テクノロジーは、人間の創造力を高める方向に役立ってこそ本当の価値があるように思います。今回のシンクライアントも、利便性のレベルを超えて学生の創造性の発露につながることを期待しています」

